

第2回 地質調査総合センター研究奨励賞について

地質調査総合センター（GSJ）では、研究者が推進する先端的研究成果の社会発信を加速するため、令和2年度に地質調査総合センター研究奨励賞（GSJ研究奨励賞）を設置し、プレスリリース等の成果発信を奨励している。第2回の実施となる令和3年度は、2021年1月～12月にGSJの研究者が発表したプレスリリースおよび主な研究成果を対象に、「社会課題の解決や当該学術分野に大きな影響を及ぼすことが期待される研究」を選考した。選考に当たっては、地質調査総合センター研究企画室と連携推進室の12名のメンバーから成る選考委員会を組織した。選考は、委員がそれぞれ奨励賞にふさわしいと考える3件の研究に対して理由を添えて投票した後、それらの結果を踏まえて総合センター長により決定された。

令和3年度のGSJ研究奨励賞は、地質情報研究部門の中澤 努氏、野々垣 進氏による『**ついに完成！ 東京都心部の3次元地質地盤図**』が受賞した（写真は授賞式の様子）。受賞理由は「本研究は、5万点にも及ぶボーリングデータを統一的な視点でとりまとめ、東京都心部の地質構造を立体的に見ることができる3次元地質地盤図を完成させたものである。3次元地質地盤図は、一般社会から見ても理解しやすく実用度の高い情報を提供しており、今後の都市開発やインフラ整備、防災・減災等に大いに役立つものと言える。プレスリリース後の社会からの反響も非常に大きく、インフラや不動産関係の業界にも大きなインパクトを与えており、今後の幅広い分野での利活用が期待される。」であり、得票数は12票で選考委員会の満場一致の結果であった。また、本研究のプレスリリースは2021年5月21日に記者レク形式で行われ、多くの記者からの質問が寄せられるとともに、プレスリリース後の取材数や産総研公式Twitterのいいね数などからも、反響が大きい様子が伺えた。

その他のプレスリリースや主な研究成果についても、発表後の社会的な反響が大きいものばかりであり、GSJの研究者が生み出す研究成果の質の高さや、社会のニーズに沿った研究を進めていることを実感した。今後もプレスリリース等による研究成果の発信が促進されるとともに、GSJや産総研全体でのインターナルコミュニケーションの向上につながることを期待する。

（地質調査総合センター研究企画室）



写真 2022年3月30日に総合センター長室にて、中尾総合センター長より賞状を授与。